

台湾道教の縊死者に関する儀礼とその地域的差異

—高雄・屏東地域と台南地域の比較を中心に—

山 田 明 広

The Daoist Ritual Concerning Those Who Committed Suicide by Hanging Himself and Its Regional Differences in Taiwan:

Focusing on a Comparison between Gaoxiong-Pingdong 高雄・屏東
Region and Tainan 台南 Region

YAMADA Akihiro

Based on the field work about present Daoist rituals in Taiwan that the author has carried out, this paper aims (a) to describe each present factor, such as ritual structure, content, purpose, significance and so on, of the Daoist ritual concerning those who committed suicide by hanging himself in Gaoxiong-Pingdong 高雄・屏東 Region and that in Tainan 台南 Region; and (b) to analyze the regional differences of these two rituals by comparing them.

As a result of these studies above, this paper reveals that the Untying the Noose on the Scaffold 絞台放索 rite in Gaoxiong-Pingdong Region is the rite to which some actions were added to accomplish two purposes: (a) untying the noose used for suicide from the dead soul, and (b) expelling the bad demon which is considered the cause of death by hanging on the Search on Hell 探城 rite, the purpose of which is relieving the dead soul from the hell. On the other hand, the Removing the Pillar and Untying the Noose 抽楹放索 rite in Tainan Region is the rite only to accomplish two purposes: (a) untying the noose used for suicide from the dead soul, and (b) expelling the bad demon which is considered the cause of death by hanging.

一、はじめに

本稿は、筆者がこれまでに行ってきた現代台湾道教の儀礼に関する現地調査に基づき、台湾南部地域¹⁾に見られる道教の異常死者救済儀礼のうち縊死者に関する儀礼について、まず、その儀礼構造や内容、儀礼を行う目的、意義などを含む現況について描写し、その上で、台湾南部地域をさらに高雄・屏東地域と台南地域に分け、両地域間に見られる同儀礼の地域的差異について考察することを目的とする。

この道教の縊死者に関する儀礼については、浅野春二氏が台南市県に見られる道教の死者救済儀礼である斎（功德儀礼）の種類と程序について論じた文章²⁾において、および筆者が台湾南部地域に見られる道教の異常死者救済儀礼を総合的に論じた論考³⁾において少し触れられている程度で、これまでほとんど考察されていない。

また、台湾南部地域の道教のうち、高雄県岡山鎮以南の地域（高雄・屏東地域）の道教と以北の地域（台南地域）の道教とを比較すると、両地域の道士は皆同じ教派（靈宝派、正一派靈宝道壇）に属する⁴⁾が、その儀礼実施法や音楽、使用する文書などに関しては大きく異なるとよく言われる。

そこで、本稿では、この道教の縊死者に関する儀礼の現況を描写することにより、台湾道教の全容を解明する助けとするとともに、この儀礼の台湾南部地域に見られる地域的差異について考察することにより、高雄・屏東地域の道教と台南地域の道教は実際異なるということを証明し、かつ、また、両者の間にはいかなる差異が見られ、いかなる共通点がみられるのか解明するのに供したい。

二、高雄・屏東地域の縊死者に関する儀礼

まず、高雄・屏東地域に見られる道教の縊死者に関する儀礼について検討したい。先に、筆者がこれまでに観察し得た同儀礼の事例の詳細な資料を示すと以下のようになる。

1) 本稿で言うところの台湾南部地域とは、台湾の台南県以南の地域のことを指す。

2) 浅野春二「斎の種類と程序」（浅野春二『台湾における道教儀礼の研究』、笠間叢書、2005年、第二章第三節）

3) 山田明広「台湾道教の異常死者救済儀礼について—台湾南部地域を中心として—」（松浦章編『東アジアにおける文化情報の発信と受容』、雄松堂出版、2010年）

4) 台湾道教の教派の分類およびその職能と分布については、謝聰輝・吳永猛共著『台湾民間信仰儀式』（国立空中大学、2005年）、10-13頁、および李豊楙・謝聰輝合著『台湾斎醮』（国立伝統芸術中心籌備処、2001年）、20-31頁参照。

○事例 A：高雄県大樹郷午夜功德（西暦2005年11月30日：高雄県林園郷在住・劉雅弘道長主持）

において行われた絞台放索科儀

場所：遺族宅（自殺を図った現場）

参加道士：高功⁵⁾、都講、副講、引班、侍香

特別な準備物：枉死城（上部に放索台あり）〔写真1〕、替身、箒、莫藎、塩米、下駄、傘

次に、事例 A において実際に見られたものに基づいて台南地域の抽楹放索科儀の構造および内容を示すと以下ようになる。

① 上香、三跪九拝

遺族が放索台付きの枉死城に向って上香し、三跪九拝する。

② 歩虚

半歩虚（三啓頌第三の後半部分⁶⁾）を唱う。

③ 浄壇

浄壇呪⁷⁾を唱い、浄水を撒くことで壇を浄化する。この後より、女性の遺族たちが、亡者の名前を叫びながら枉死城を揺らす。

④ 開光

鶏の鶏冠を切って採取した血を放索台と枉死城に塗りつけることにより、これらの開光を行う。

⑤ 焚香請神

焚香により、三清上聖、東極青宮救苦天尊などといった高位の神々を壇へと請来する。

⑥ 三献酒

5) 儀式における道士の役割を表す名称の一つ。「高功」は、儀式を中心に行う道士のことで、主要な科儀においては道長が務めるが、それ以外では必ずしも道長が務めるとは限らない。それ以外の役割として、「都講」、「副講」、「引班」、「侍香（直香）」があり、「都講」は儀礼全体の調整に「副講」は疏文の管理、「引班」は道士団の先導役および斎主の世話役、「侍香」は香や灯の管理に当たる。また、儀式を行う際には、役割に応じてそれぞれ立ち位置が決まっており、「高功」は真ん中に、「都講」はその左隣に、「副講」は右隣に、「引班」は「都講」の左隣に、「侍香」は「副講」の右隣に立ち儀式を行う。大淵忍爾前掲書、200-201頁参照。

6) ここでの歩虚詞の内容は「超度三界難、地獄五苦解、悉皈太上經、静念稽首礼」となる。このような歩虚詞は『玉音法事』（『道藏』SN607）卷上、12a10-12b9、および卷下、29b2-29b3に見られる。

7) 琳琅振響、十方肅清、河海静黙、山獄吞煙、万靈振伏、招集郡仙、天無氛穢、地無祓塵、冥慧洞清、大量玄玄也、十方肅清天尊。

道壇へと請来した神々に対して三献酒を行う。

⑦入意

手上疏文を宣読する。

⑧焚香請神、化財功養

焚香により、放索大將軍、土地里域の神などを壇へと請来し、これらの神々に供養を施す。

⑨「思念太乙救苦天尊」を唱う

救苦天尊を思念し、亡魂の罪を赦すよう祈求するという内容の六句の詞⁸⁾を唱う。この際、高功が男性の遺族たちを従え科儀宅およびその後ろにある枉死城の周辺を旋繞する。旋繞の際、枉死城の後ろに差しかかると、まず高功が紙銭花に火を点けて放索台上の替身を照らし、その後、高功の後ろに位置し手に炬を持つ孝男が炬にさした香を替身に向けて香煙を当てる〔写真2〕。

⑩妙行真人に扮する

高功が「生錦地」⁹⁾を唱いながら、舞剣を行い、妙行真人に変身する。

⑪対答、過関¹⁰⁾

妙行真人に扮した高功が、楽師扮する各所の役人や門番と閩南語の口頭語により対話する。対話中、妙行真人が三宝殿前から出発して、鬼門関、万里沙坡、三教報恩宮といった関を過ぎ、最終的に亡魂のいる放索台まで到達する様子が表現される。対話中、関を過ぎるたびに、⑨で記したのと同様にして科儀宅およびその後ろにある枉死城の周辺を旋繞する。

⑫徐甲真人に扮する

妙行真人に扮していた高功が、頭に赤い鉢巻をすることにより徐甲真人に扮する。

⑬調五營

先に引班が龍角を吹きつつ火を点けた金古紙を五營旗にかざすことで五營旗を浄化し、次に浄水により壇の五方を浄化し、その後、緑→赤→白→黒→黄の順に五營旗を手執り舞い、最後に都講が七星剣を東→南→西→北→中の順に手に執り噴水を行いつつ舞剣を行う。これにより、東→南→西→北→中の各方向の五營兵将を召請する。

⑭枉死城を打破する

8) 思念太乙救苦天尊、一赦亡魂生前罪、二赦亡魂死後愆、有罪無罪尽皆赦、赦了亡魂無罪愆、薦拔亡魂早超昇。

9) 滌願上報四重恩、滌願下濟三途苦、広連慈悲度一切、広行方便度衆生、願薦亡魂早超昇。

10) この部分は、閩南語の口語体にて行われ、同じ高雄・屏東地域であっても、道壇によりいくらか異なるようである。



写真1 放索台付き
枉死城



写真2 孝男が替身に香煙を当てる



写真3 替身の首に掛かる縄を解く様子

都講が破地獄檄¹¹⁾を結び、噴水した後、七星剣にて枉死城の正面を打ち破る。

⑮替身を解放する

高功が放索台上で首つり状態にある替身を首に掛かる縄を解いて解放し〔写真3〕、その後、替身を上方から枉死城の中に入れて、正面の破り口から取り出す。これにより、亡魂を首つり状態から解放しさらに地獄より救出するということが演じられる。枉死城より取り出された替身は、すぐに遺族の一人により傘を差し掛けられる¹²⁾。この過程においては、神がかった神轎による儀式への介入が見られた¹³⁾。

⑯替身を携えて霊堂へ移動する

都講が枉死城より取り出されたばかりの替身を浄化し、それを孝男の背中に結びつけ、その後、遺族らはこの替身を携えて一斉に霊堂へと向かう。

⑰駆箒

まず、高功が自殺が行われた現場付近に塩米を撒き、続いて他の道士や補助の者らが自殺用の縄が掛けられていた階段の梁や柱を解体し、外に停めてあるトラックへと運ぶ。同時に別の道士が箒に取り付けた金古紙に火を付けて、その箒で枉死城の周囲の地面や枉死城そのものを叩き、さらに莫塵を巻いて両端に金古紙を付けたものを手に執り、両端の金古紙に火を点けて胸の前で円を描く様に回した後、倒された枉死城の周囲および枉死城そのものを叩く。これら

11) 薬指と薬指、中指と中指、人指し指と人差し指とを組み合わせ、左の指を右の指の右に入れ、右手を巻いて親指と親指、小指と小指を合わせる一種の手訣のこと。

12) 天日にさらされるのを防ぐためであるという。

13) この神がかった神轎は遺族が住んでいる地域の守護神が憑依した神轎であり、この神轎による儀式への介入は、地域の守護神が亡魂の地獄からの救済に参与していることを意味する。

一連のことは行うことで、付近に充満する悪煞を駆逐する。最後に、階段の梁や柱、枉死城を載せたトラックが処分地へと向けて出発するが、その際、高功がトラックの後ろから追うようにして塩米を撒いて悪煞を駆逐する。この過程においても、神がかった神輿による儀式への介入が見られた。

以上、およそ25分間の儀式となる。

三、台南地域の縊死者に関する儀礼

続いて、台南地域に見られる道教の縊死者に関する儀礼について検討したい。まず、筆者がこれまでに観察し得た同儀礼の事例の詳細な資料を示すと以下ようになる。

○事例 B：台南市関帝殿無上黄籙・玉籙拔濟大斎功德¹⁴⁾（西暦2010年8月18日～21日：台南県善化鎮・鍾旭武道長主持）において行われた抽楹放索科儀

場所：道壇の入り口付近¹⁵⁾

参加道士：高功

特別な準備物：吊客山〔写真4〕、替身、箒、莫蔭、塩米

次に、事例 B において実際に見られたものに基づいて台南地域の抽楹放索科儀の構造および内容を示すと以下ようになる。

①上香

高功が香を手を持ち科儀卓上の救苦献状に対して礼拝した後、科儀卓上の香炉に香を挿す。

②召五斗

金古紙を燃し、帝鐘を鳴らしながら嚙水し、龍角を吹いて後、手に龍角を持ち帝鐘を鳴らしながら舞うことで東斗星君から順に南斗→西斗→北斗→中斗の各星君を召請する。各星君を召請するたびに、礼拝して上香する。

③召請二吊鬼

縊死を引き起こす原因であると考えられている二吊鬼を、壇堂→壇→壇門へと順に至るよう

14) 本儀礼は、周辺地域の死者の救済を目的として廟内で執り行われた法会中に行われたものであり、誰かが亡くなり、その者の救済のために亡者の家庭あるいは葬儀場にて行われたものではない。

15) 本来は、台南地域においても自殺を図った現場となるが、周辺地域の多くの死者救済を目的とした法会において行われた儀礼であるため、このような場所となった。



写真4 吊客山



写真5 吊客山の開光

三度に渡り道壇へと召請する。

④召三直符使¹⁶⁾

②召五斗と同様の所作により、上・中・下界の各直符使者を召請する。

⑤歩虚

半歩虚（三啓頌第三の後半部分¹⁷⁾）を唱う。

⑥浄壇

浄壇呪¹⁸⁾を唱い、浄水を撒くことで壇を浄化する。

⑦開光

鶏の鶏冠を切って採取した血を吊客山に塗りつけることで開光を行う。〔写真5〕

⑧神々への上啓

三清上聖など高位の神々から凶神悪煞に至るまでのこの科儀に関わるすべての神に対して壇へと来臨するよう申し上げる。

⑨三献酒

壇へと請来した神々に対して三献酒を行う。

⑩入意

手上疏文を宣読する。

⑪上謝

16) 大淵忍爾『中国の宗教儀礼 仏教・道教・民間信仰』（福武書店、1983年）、706-707頁参照。

17) 本稿注6参照。

18) 本稿注7参照。

壇へと請来した神々に対して拝謝する。

⑫化紙呪を唱う、浄壇

化紙呪を唱いながら、壇および吊客山に浄水を撒き、壇全体を浄化する。

⑬五傷悲を唱う

金古紙に火を点け宝戟にかざして浄化した後、手に宝戟を執り、五傷悲を唱いながら吊客山の周りを旋遶する。

⑭替身を解放する

高功が「道童、助我三通法鼓、倩破吊客山（道童よ、我が法鼓を三回鳴らし、吊客山を打破するのに助力せよ）」と述べて宝戟の先で吊客山に触れて揺らし、その後、補助の者らとともに吊客山上の替身に掛けられている縄を解き、さらに吊るされている吊客山自体を下ろす。

⑮驅煞

まず、高功が箒に取り付けた金古紙に火を付けて後、その箒で壇の周囲の地面を叩き、続いて、莫蔭を巻いて両端に金古紙を付けたものを手に執り、両端の金古紙に火を点けて胸の前で円を描く様に回した後、同様に壇の周囲の地面を叩く。その後、周囲に塩米を撒き、煞神を驅逐し二度と戻ってこないようにせよといった内容の呪言を述べる。これにより縊死を引き起こす原因であると考えられている悪煞（二吊鬼）を駆逐する。

以上、およそ30分の儀礼となる。

四、考察

ここまで、高雄・屏東地域の絞台放索科儀と台南地域の抽楹放索科儀のそれぞれについて個別に検討し、それぞれの儀礼構造や実施方法等は明らかとなった。それでは、次に、両者を比較し、同じ道教の縊死者に関する儀礼でも、地域の相違によりいかなる差異が見られるのか考察したい。

まず、両者の儀礼構造について、両者の儀礼の節次を表に表した資料1を用いて比較すると、「歩虚→浄壇→開光→請神→三献酒→入意」と続く部分や「替身を解放する」、「驅煞」などといった節次などいくつか共通の節次も見られるが、しかし、全体的には大きく異なっていると言える。これは、これら2種類の儀礼を行う目的や効能と大きく関係している。

高雄・屏東地域の絞台放索科儀は亡魂の地獄からの救済というのがその主な目的であり、その上に、亡魂から自殺の際に首に掛けられた縄を解く、縊死を引き起こす原因であると考えられている悪煞を駆逐するという2つの目的が副次的に組み合わせられている。というのも、同地

域の枉死者を地獄から直接救済する儀礼である探城科儀¹⁹⁾と比較してみると、構造的にはほとんど同じであり、異なるのは、資料1事例Aの部分の「⑮替身を解放する」という節次が付加加わっているという点、および「⑰驅煞」の節次に「現場周囲に塩米を撒き自殺用の縄が掛けられていた階段の梁や柱を解体する」という動作が加わっている点のみである。そして、このうち、「⑮替身を解放する」という節次が亡魂から自殺の際に首に掛けられた縄を解くという目的を遂げるための節次となり、「⑰驅煞」の節次中に加えられている「現場周囲に塩米を撒き自殺用の縄が掛けられていた階段の梁や柱を解体する」という動作が縊死を引き起こす原因であると考えられている悪煞を駆逐する目的を遂げるための動作となる。つまり、高雄・屏東地域の絞台放索科儀は、枉死者を地獄から直接救済する儀礼である探城科儀を基礎としてそれに「⑮替身を解放する」という節次および「現場周囲に塩米を撒き自殺用の縄が掛けられていた階段の梁や柱を解体する」という動作を新たに付加することで亡魂から自殺の際に首に掛けられた縄を解く、縊死を引き起こす原因であると考えられている悪煞を駆逐するという効能を新たに付加させ、そうすることで縊死者救済および悪煞駆逐の儀礼としているのである。

一方、台南地域の抽樞放索科儀は、高雄・屏東地域の絞台放索科儀においては副次的な目的とされていた亡魂から自殺の際に首に掛けられた縄を解く、縊死を引き起こす原因であると考えられている悪煞を駆逐するという2つの目的が主目的となっており、亡魂を地獄から救済するという目的は儀礼構成や内容から判断して全く存在しないようである。というのも、同地域の枉死者を地獄から直接救済する儀礼である打城科儀²⁰⁾と比較してもその構造や内容は大きく異なり、太一真人（後、徐甲真人）が地獄へと向かい亡魂を救済するという部分が全く見られず、かなり簡単になっており、そもそも台南地域においては、高雄・屏東地域とは異なり、この抽樞放索科儀を先に行って後、改めて打城科儀を行うなど、亡魂から自殺の際に首に掛けられた縄を解く、縊死を引き起こす原因であると考えられている悪煞を駆逐するという2つの目的を遂げる儀礼と亡魂を地獄から救済するための儀礼とが分けられているからである。つまり、台南地域の抽樞放索科儀は、高雄・屏東地域の絞台放索科儀とは異なり、専ら亡魂から自殺の際に首に掛けられた縄を解く、縊死を引き起こす原因であると考えられている悪煞を駆逐するという2つの目的を遂げるための儀礼なのである。

高雄・屏東地域の絞台放索科儀と台南地域の抽樞放索科儀との間には、儀礼構造や目的、効能上かかる大きな相違が見られるが、このことは両者の間に見られるその他の相違にも現れて

19) 高雄・屏東地域の探城科儀に関しては、山田明広注3前掲論文、344-348頁参照。

20) 台南地域の打城科儀に関しては、大淵忍爾注16前掲書、502-510頁、および黄佳琪『道教打城儀式之音楽研究』（国立台湾師範大学民族音楽研究所碩士論文、2005年）参照。

いる。その最も顕著なものとして、亡魂が拘束されている場所の相違がある。つまり、高雄・屏東地域の絞台放索科儀においては枉死城の上に作られた放索台が亡魂が拘束されている場所となるが、台南地域の抽櫪放索科儀においては、それは吊客山となるという点である。両者とも替身（亡魂を象徴的に表した紙製の人形）はいずれも首を吊られた状態になっているのは同じであるが、放索台は下にさらに枉死城が存在するのに対し、吊客山は下には何も無く、それ自体は宙づりになっているだけである。この枉死城とは、主に高雄・屏東地域の探城科儀や台南地域の打城科儀で用いられる、亡魂が幽閉されている地獄の城門のことであるが、高雄・屏東地域の絞台放索科儀は亡魂を地獄から救済するという目的を有するため、この枉死城を下に持つ放索台が用いられ、台南地域の抽櫪放索科儀は亡魂を地獄から救済するという目的を有しないため、ただ替身が首つり状態になっている状況を表すのみの吊客山が用いられるのである。

最後に、儀礼を行う場所について、高雄・屏東地域の絞台放索科儀と台南地域の抽櫪放索科儀とを比較したい。上ではそれぞれ異なるかのように記しているが、注15においても記してあるように、実際には両者とも同じで、亡者が自殺を図った現場となる。これは、自殺が行われ

資料1

| 事例A：絞台放索科儀 | 事例B：抽櫪放索科儀 |
|----------------|------------|
| ①上香、三跪九拝 | ①上香 |
| | ②召五斗 |
| | ③召請二吊鬼 |
| | ④召三直符使 |
| ②歩虚 | ⑤歩虚 |
| ③浄壇 | ⑥浄壇 |
| ④開光 | ⑦開光 |
| ⑤焚香請神 | ⑧神々への上啓 |
| ⑥三献酒 | ⑨三献酒 |
| ⑦入意 | ⑩入意 |
| | ⑪上謝 |
| | ⑫化紙呪を唱う、浄壇 |
| | ⑬五傷悲を唱う |
| ⑧焚香請神、化財功養 | |
| ⑨「思念太乙救苦天尊」を唱う | |
| ⑩妙行真人に扮する | |
| ⑪対答、過関 | |
| ⑫徐甲真人に扮する | |
| ⑬調五營 | |
| ⑭枉死城を打破する | |
| ⑮替身を解放する | ⑭替身を解放する |
| ⑯替身を携えて霊堂へ移動する | |
| ⑰驅煞 | ⑮驅煞 |

た現場にはそれを引き起こす原因となる悪煞が残っており、これが残っている限り、また、同じ場所で自殺がおこると考えられているからであり、したがって、高雄・屏東地域の絞台放索科儀と台南地域の抽楹放索科儀はいずれも縊死を引き起こす原因であると考えられている悪煞を駆逐するという目的を有しているのである。

五、おわりに

以上、高雄・屏東地域の絞台放索科儀と台南地域の抽楹放索科儀について、まず、それぞれの科儀はいかなるものであるか検討して後、両者の間にはいかなる相違が見られるか考察した。

考察の結果、高雄・屏東地域の絞台放索科儀は亡魂を地獄から救済することをその主な目的とし、その上に、亡魂から自殺の際に首に掛けられた縄を解く、縊死を引き起こす原因であると考えられている悪煞を駆逐するという2つの目的が副次的に組み合わされた儀礼である、つまり亡魂を地獄から救済することを目的とする探城科儀に亡魂から自殺の際に首に掛けられた縄を解く、縊死を引き起こす原因であると考えられている悪煞を駆逐するという2つの目的を遂げる節次や動作が加えられた儀礼であるのに対し、台南地域の抽楹放索科儀は、専ら亡魂から自殺の際に首に掛けられた縄を解く、縊死を引き起こす原因であると考えられている悪煞を駆逐するという2つの目的を遂げるための儀礼であるということが分かった。また、このようであるため、高雄・屏東地域では、絞台放索科儀が行われた場合、それに加えて探城科儀が行われることはないが、台南地域では、抽楹放索科儀を行った後に、さらに亡魂を地獄から救済することを目的とする打城科儀が行われるのである。したがって、両地域とも、最終的には、1. 亡魂を地獄から救済する、2. 亡魂から自殺の際に首に掛けられた縄を解く、3. 縊死を引き起こす原因であると考えられている悪煞を駆逐するという3つの重要な目的が遂げられていることになり、その手段や方法、手順に地域的相違が見られるだけであるということになる。

本稿においては、道教の縊死者に関する儀礼の現状のみを取り扱い、その歴史的側面については全く取り扱うことができなかった。また、取り扱った地域も高雄・屏東地域と台南地域という2地域のみであり、取り扱った事例数も2例と非常に少なかった。これらの点については、今後の課題としたい。